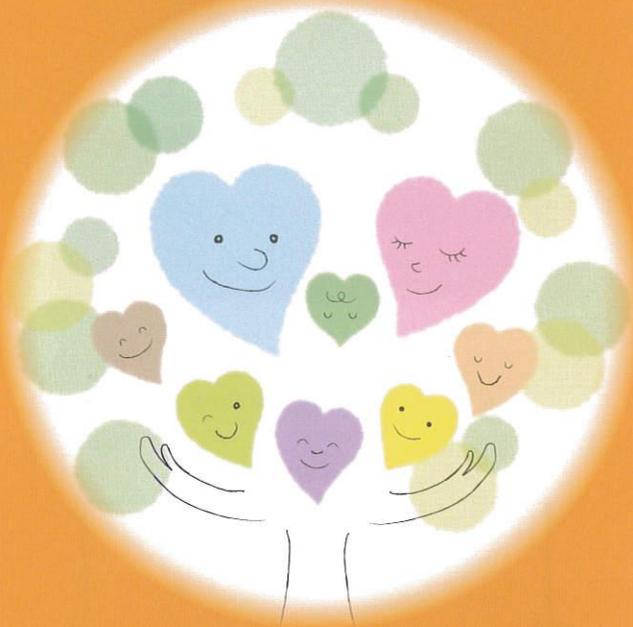


事業名と目的	事業開催日と内容	事業成果と提案
<p>■多職種セミナー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>重症心身障がい児者への理解を進めるとともに、地域での福祉の質を上げることを目的に、当事者、家族、医師、医療職、福祉職、行政職、議員、学生等多職種によるセミナーの開催</li> </ul>	<p>*平成29年7月～ 30年2月迄</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>セミナー5回開催</li> <li>参加者数 延べ537名</li> <li>毎回のセミナー開催後にアンケート調査を実施</li> </ul>	<p>*医療、福祉、学校、家族、機関、議員等によるパネルディスカッションにおいて次の3点が主な提案であり早急に対応すべき課題と捉えた。</p> <p>①当事者や保護者の希望、困りごと等に対応でき、たらいまわししない相談窓口の設置／なんでも困りごと相談のワンストップ化：参照</p> <p>②社会資源を活用した連携・協働の実施／包括支援ケアシステム（案）：参照</p> <p>③大規模災害の発生した際の避難や支援の対応策</p>
<p>■重症心身障がい児者の大規模災害時の調査・研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>重症心身障がい児者が大規模災害の発生した際の、避難や対応するにあたり、望ましい支援や制度構築のための調査・研究事業</li> </ul>	<p>*平成30年6月～ 31年1月迄</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>調査研究会／4回開催</li> <li>講演会／1回</li> <li>実態調査／熊本県・宮崎県</li> <li>先進地視察／2ヶ所</li> <li>まとめ報告会／1回</li> </ul>	<p>*セミナーで提案のあった「災害」をテーマに調査・研究事業を実施した。重症心身障がい児者の避難や望ましい支援、それに付随する制度を構築するには、次の2点の課題に気づくことができ、調査・研究を実施した。</p> <p>①住民同士の開かれた地域社会となっているか？</p> <p>②どのような社会的障壁が原因となっているか？</p> <p>そして研究・調査のまとめとして「提言書」を作成し、行政に提言として提出／生きるを支える～重症心身障がい児者の望ましい支援や構築～；参照</p>
<p>■地域での支援のネットワークづくりのための講演会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>重度心身障がい児者を社会全体で支えていくために現状と環境の理解、必要とする支援の内容とネットワークづくりを目的とした講演会の開催</li> </ul>	<p>*令和元年6月10日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参加者数 52名</li> <li>(当事者・家族・医療関係者・福祉関係者・行政・企業関係者)</li> </ul>	<p>*セミナーで得られた提案や課題、そして研究・調査事業でまとめた「提言書」を実践するには、社会全体で取り組む課題として認識する必要があると気づき、多職種に呼び掛け「地域の福祉の質を高める」をテーマに講演会を開催した。</p> <p>この講演会では、家族も声を上げ、様々な組織や団体の協力を積極的に受け、また協働し、全国どこに住んでいても同じサービスが受けられ、妊産婦から成人になるまで切れ目ない医療と支援の制度の構築が必要とまとめた。</p>
<p>■宮崎で予想される南海トラフによる津波防災セミナー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>重症心身障がい児者と地域住民が子どもの命、自分の命を守る学びを得るための津波防災セミナーの開催</li> </ul>	<p>*令和元年8月22日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参加者 54名</li> <li>(利用者、施設職員、地域関係者、地域住民、地域消防団員)</li> </ul>	<p>*東日本震災で津波災害を経験された病院、施設関係者による講演会では、甚大な災害にあった方々の生の声を聴く事により、災害を忘れないでいる事の大切さを痛感した。また、精神的に不安になる利用者の事を思うと、日ごろから地域との結びつきと施設について理解して頂くことの大切さを改めて学ぶことができた。</p>



おかあさんサポートひなたは、  
保護者のための相談サービス窓口。  
病気とともに生きるお子様とご家族が  
「安心して生活できること」を目指します。

同じ境遇であるピアサポーターが  
経験からアドバイスします。

ピアサポートとは、ピア(peer)は  
仲間や同僚という意味があり、同じような立場にある  
仲間が自らの体験を基に支援し問題解決する活動です。



## よくあるご質問

- Q** 相談室でのプライバシーは守られますか？
- A** ご相談場所は、病院内のプライバシーの守られたお部屋を利用します。  
お子様連れでの来所も可能です。
- Q** 相談は予約が可能ですでしょうか？
- A** お待たせすることなく、ゆっくりお話させていただくために、基本的に予約制になっております。  
電話でのご相談も可能ですが、事前に電話相談日時の予約をお願いします。
- Q** 相談に費用はかかりますか？
- A** 相談は無料です。  
おひとり何度でもご相談いただけます。

## おかあさんサポートひなた

社会福祉法人キャンバスの会  
〒880-0036  
宮崎県宮崎市花ヶ島町入道 2196

【お問い合わせ・相談予約】

お電話 070-1512-7117  
メール [canbas.hanagashima.hinata@gmail.com](mailto:canbas.hanagashima.hinata@gmail.com)

※面談相談・電話相談は事前にご予約下さい。

【受付時間】

月～金曜日 10:00～15:00 土・日・祝休み



相談  
無料

社会福祉法人  
キャンバスの会

公益財団法人フランスベッド・メディカルホームケア研究・助成財団の  
助成を受け作成しています。



# 今、あるいはこれからの 悩みや不安

赤ちゃんを病院から  
連れて帰るとき、  
どうしたらいいの？

自宅で家族は  
どんなサポートを  
すればいいの？

利用できる  
福祉制度は  
何かないかな？

いろんな事情で  
家に連れて帰ることが  
不安です。

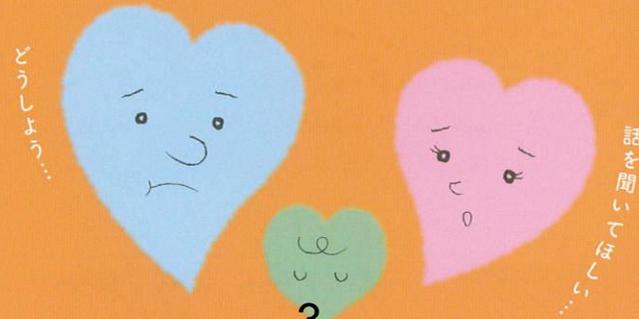
家族が疲れて  
しまいました…。

誰かに話を  
聞いて  
ほしいです。

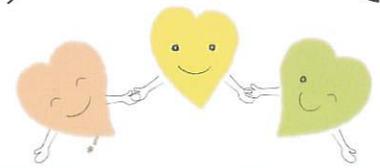
子どもが何らかの  
問題をもっていることが  
予想されます…。  
どうしたら  
いいの？

一人でケアをする  
自信がありません。  
どうしたら  
いいの？

兄弟児に、  
病気のことを  
なんて伝えよう？

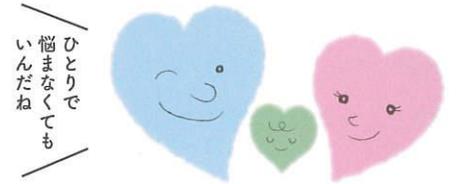
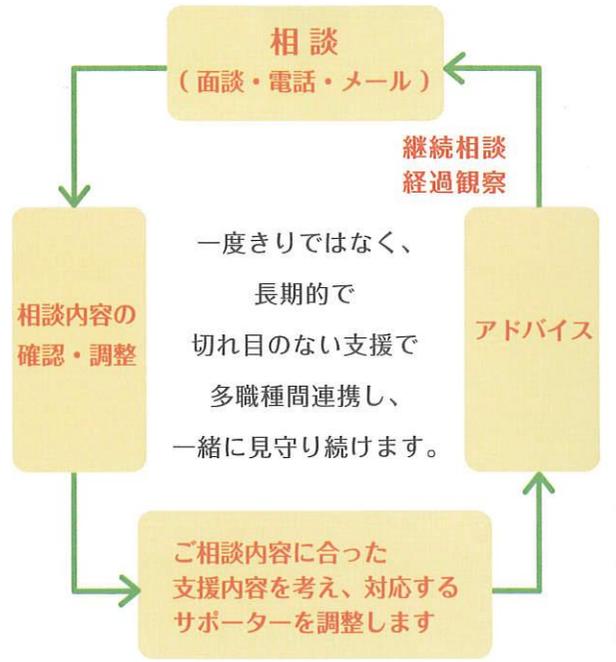


まずは、お話してみてください



ピアサポーターがあなたと共に、  
お悩みや困りごとについて共に考え、  
解決していくお手伝いをします。

## 【相談の流れ】 (なんでも困りごと相談のワンストップ)



# なんでも困りごと相談のワンストップ化

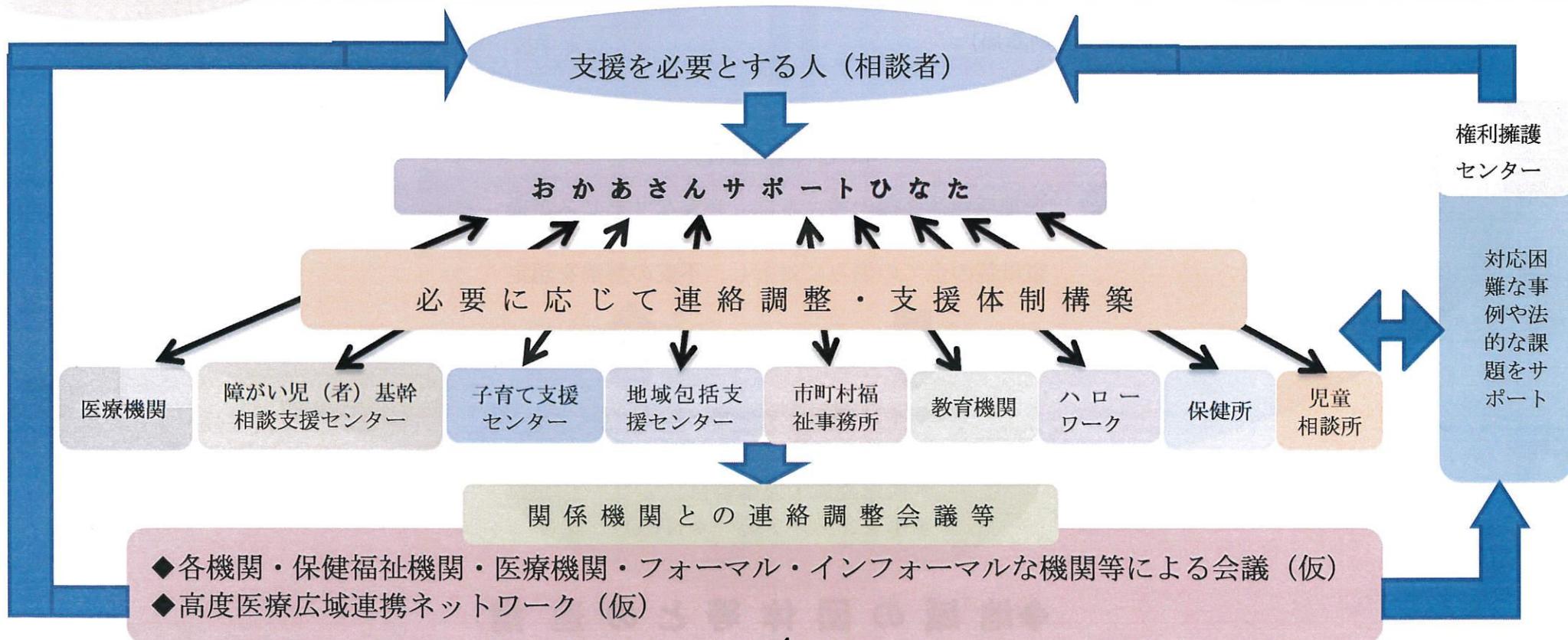
◆おかあさんサポートひなたでは、障がい児(者)等にかかわらず、なんでも困りごとの初期相談等に対応します。

\* 主訴が明確な相談は、各種相談窓口につながります。

\* 主訴が明確でない、漠然とした不安、重層的な課題等のある相談は、インテークを実施し必要な支援機関を調整します。

相談支援のポイント

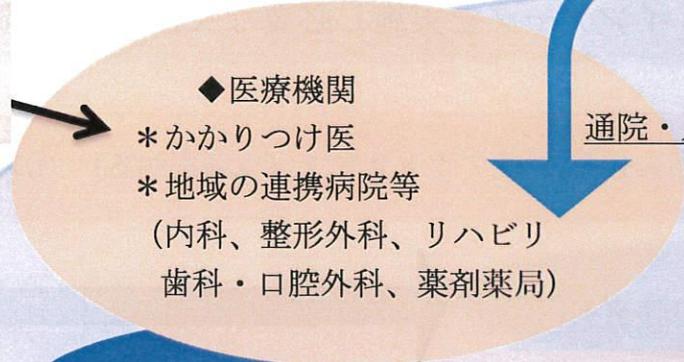
- ① たらいまわしにしない ② 相談支援だけで終わらせない ③ アウトリーチ（現場を知る） ④ 家族全体を知る



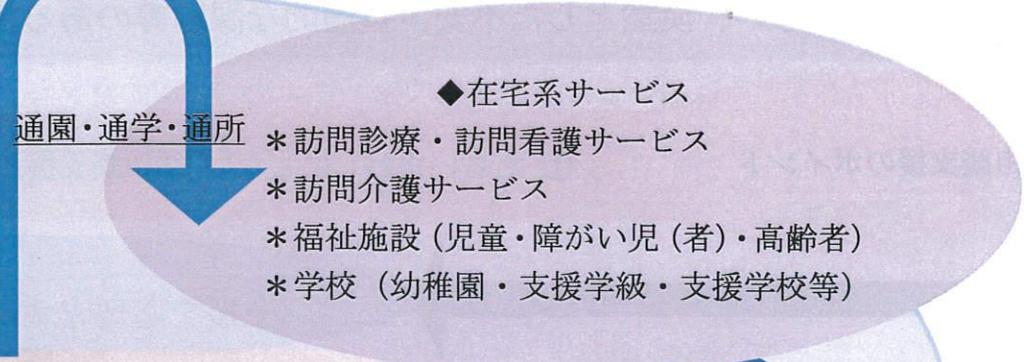
# 包括支援ケアシステム (案)

- \* 大学病院
- \* 医師会
- \* 県病院
- \* 個人病院

## ◆病院との連携



## ◆在宅サービスとの連携

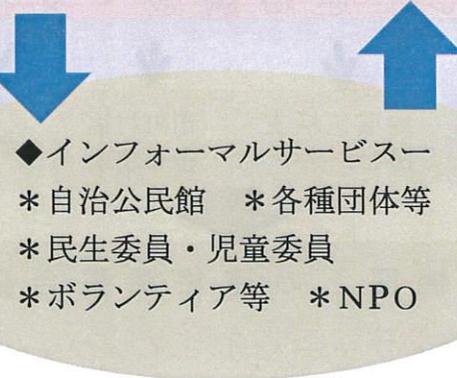


## 自宅 (在宅者)

※地域包括支援の考え方は、必要なサービスが提供される生活圏域を単位として想定  
※母親の全ての悩みに対応し、不安の解消を想定

情報提供

訪問



## ◆地域の団体等との連携

## ピアサポーターによる困りごと相談のワンストップ化

社会福祉法人キャンパスの会  
障がい福祉サ―ビス事業所 はながしま

### 1 はじめに

医療技術の発展、医療関係者の尽力により宮崎県の周産期医療は大幅に改善され、周産期死亡率は大きく低下し全国でもトップクラスの状況となった。一方で、一命はとりとめたものの、体に障がいを持つこととなった乳児も増加傾向にあるが、この点への対応は遅れている（従前と変わらぬ）のが現状と思われる。特に病院から在宅への移行は親の戸惑いはもちろんのこと、絶対的な利用施設の不足等により容易ではないという声をお聞きする。

障がいがある子供を抱える家族の日々の暮らしは、あらゆる問題にぶつかり、家族だけで乗り越えることは困難なことも多く、様々な相談を受ける事がある。

こうした経験から、子供と家族が地域で当たり前に暮らし、自分らしく生活していくためのお手伝いを、早い段階でキャンパスの会と利用する保護者が中心となり行うものである。

### 2 取り組みの内容

(1) 重症心身障がい児を育てた多くの人が、子供が生まれてから2、3年は現実を受け入れるのに葛藤がある時期であり、不安や悩みで先が見通せない不安定な時期であるとしている。この為、母親の在院中から同じ重症心身障がい児を育てている先輩の親御さんが相談相手となり、必要に応じて担当医師や保健師等に繋ぎ専門的なカウンセリングを受けるという支援を行うこととした。そのため関係機関との協議から始めた。「障がい福祉サ―ビス事業所はながしま」の利用者の主治医は宮崎大学若しくは県立宮崎病院となっている。

(2) 宮崎大学附属病院の小児科との協議では、医師の介入はしないという前提で、活動することについて了承を得た。その後看護部との話し合いも行き、情報提供が必要と判断した場合には、活動の話をしていたりいただくこととなった。産婦人科との協議では、強い関心を示していただいたが、産む産まないの判断にかかわるような事態は避ける必要があることから、入院中についてはその必要性を医師が判断することとなった。事務部との協議では、相談の場所として附属病院の相談室を利用することの了承を頂いた。また関係者の皆さんから活動を周知するリーフレットが必要との話があり、小児科の医師のご協力を頂くとともに、財団からの支援も頂いて、リーフレットを作成した。リーフレットは小児科外来、医療支援課、キャンパスの会に置いてある。

(3) さらに県立宮崎病院小児科に対しても活動の趣旨を説明し、どのような相談がどの程度寄せられるのかわからない状況の為、大学病院での活動を先行する旨伝えた。

(4) ピアサポーターについては、理事長を中心にキャンパスの会を利用されている保護者の中から適性があると認められる3名の方に話をし、現在1名の方がピアサポー

ターとして活動中（相談のための連絡携帯所持）である。今後状況に応じてピアサポーターを増員したいと考えている。

現在活動中のピアサポーターは多くの資格（理学療法士、介護支援専門員、メンタル心理カウンセラー等）を有し、改めての研修の必要性は感じなかったが、個人情報を取り扱い、面談時間・電話対応等の時間厳守、医療機関との連携、キャンパスの会への連絡・報告等について周知を図った。

### 3 結 果

令和元年6月までに関係者との調整を終え、事実上7月からのスタートとなったが現在まで2件の連絡があった。うち1件は母親の両親からの活動内容の確認で、その後の本人からの相談には繋がっていない。もう1件は、障害のある子供の出産を契機とした夫婦間の問題で、ピアサポーターでもある理事長が面談対応した。

### 4 ま と め

当初想定より相談件数は少ない状況にある。これは大学病院という限定的な施設を対象としている事、周知方法が大学病院小児科に置かれたリーフレットのみで、後は病院スタッフの「気付き」に負っている事、キャンパスの会自体でも広報をしていないといった事情がある。またリーフレット自体にも「重症心身障がい児」あるいは「障がい」という文言そのものを使用していない。結果として関係者でなければ詳細は分からないようになっている。

これは大学からのアドバイスで、わが子の将来の状態が明確に想像できない母親に対する配慮であり、これからの治療に望みを託す家族への配慮でもある。

そういう意味で、今後の活動をどう広げていくか。在宅の保護者にまで拡大していくのか。ボランティア活動としてどこまでやれるのか等検討しなければならぬ。

令和2年度は予定通り県立宮崎病院での活動を開始する。

## よくあるご質問

- 相談室でのプライバシーは守られますか？
- ご相談場所は、病院内のプライバシーの守られたお部屋を利用します。  
お子様連れでの来所も可能です。
- 相談は予約が可能でしょうか？
- お待たせすることなく、ゆっくりお話しさせて頂くために、基本的に予約制になっております。  
電話でのご相談も可能ですが、事前に電話相談日時の予約をお願いします。
- 相談に費用はかかりますか？
- 相談は無料です。  
おひとり何度でもご相談いただけます。

## おかあさんサポートひなた

名 称:

住 所:

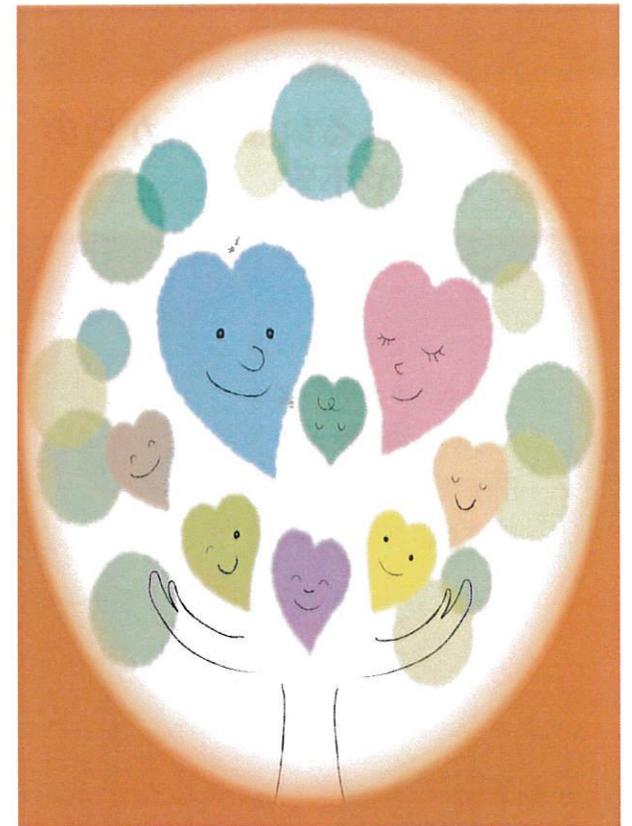
【お問い合わせ・相談予約】

お電話 070-1512-7117

※面談相談・電話相談は事前にご予約下さい。

【受付時間】

月~金曜日 10:00 ~ 15:00 土・日・祝休み



◇おかあさんサポートひなたは、保護者のための相談窓口です。

お子様とご家族が「安心して生活できること」を目指します。

◇同じ境遇であるピアサポーターが経験からアドバイスします。

◇医療や福祉の制度、サービスに詳しい専門職が医療・介護・生活支援等の情報を一体的に提供します。

相談  
無料



## 今、あるいはこれからの 悩みや不安

あかちゃんを病院から連れて帰るとき、何をどうしたらいいのですか？

- ・ 出産費用等
- ・ 産着や寝具の準備等

私の健康管理もしてほしいです。

- ・ 成人病検診
- ・ 歯科検診

子育てに関する制度やサービスについて教えてください。

- ・ 子育て支援センター

産後孤立しないように集える場がほしいです。

- ・ 子育て支援拠点

仕事を続けたいのですが？

- ・ 就労の場
- ・ 直ぐに働きたい

いろいろな事情で家に連れて帰ることが不安です。

- ・ ひとり親
- ・ 多胎児
- ・ 病気がある

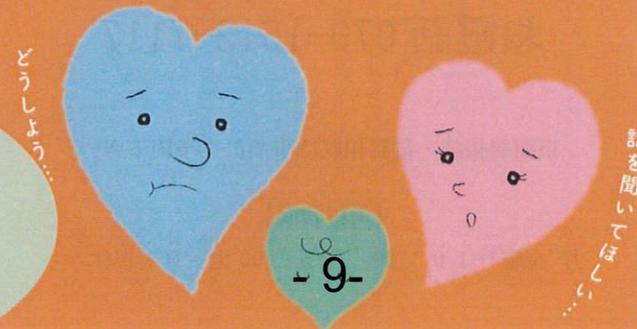
妊婦期から子育て期にわたり支援をしてほしい。

地域や親戚、家族との関係で悩んでいます。

- ・ 地域で孤立
- ・ 親戚との交流

私の話を誰かに聞いてほしいです。

- ・ 産後の悩み
- ・ きょうだい児との関係



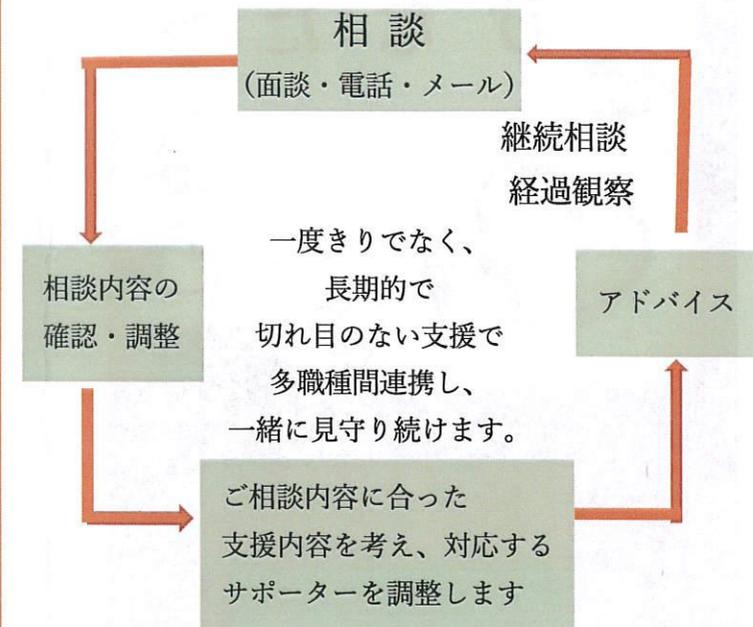
まずは、お話ししてみてください



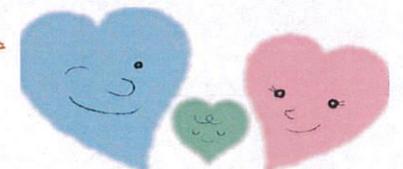
福祉専門職やピアサポーターがあなたと共に、お悩みや困りごとについて一緒に考え、医療と福祉の連携だけでなく、雇用と福祉など異分野連携で解決していくお手伝いをします。

### 【相談の流れ】

(なんでも困りごと相談のワンストップ)



ひとりで悩まなくてもいんだね。



## はじめに

### ～事業の取組みのきっかけ～

近年、周産期医療技術は目覚ましく、妊産婦死亡率及び胎児や新生児の死亡率は著しく減少しています。宮崎県の周産期医療は全国でもトップレベルの状況となりましたが、産前に、何らかの異常やさまざまなトラブルにより、産後の医療的ケアを必要とする新生児の割合が大幅に増えてきました。同時に命を取りとめたものの、生活していくためには医療面など、手厚いサポートが必要な子どもたちの数が増えてきています。

社会福祉法人キャンパスの会は、生まれた病院を退院して、在宅で家族と一緒に暮らす当たり前の生活を支えるための社会を目指しています。

そこで、平成29年度、在宅で生活する“心身障がい児(者)とその家族が抱える問題を解決するセミナー”を5回にわたり取組みました。セミナーを開催する毎に、参加者をはじめ、講師、パネリストの皆さんよりご意見やアンケートを通し、障がい福祉制度等に関する意見、提案等が多く寄せられました。

特に、重症心身障がい児(者)とその介護者である保護者からは、親亡き後の不安や年少児を中心に在宅生活を望む声も高まり、地域包括ケアの方向のなかで、大規模災害が発生した際の避難や支援(命と暮らしを守る)のための意見、提案も挙げられました。

まずは、昨今多発する震災時の対応に関する課題や問題解決に向け、「生きるを支える」をテーマに、重症心身障がい児(者)の災害発生時の避難や望ましい支援、それに付随する制度構築のための調査・研究事業に、医療、教育、福祉、学生等多職種の委員で取組みました。そして、大規模災害が発生した際の被災時における課題、問題、提案については、災害が発生した場合を想定し、保護者へのアンケートによる調査や看護学生による聴き取り調査を行いました。また、調査・研究会の委員長と学生が災害の発生した現地に出向き、介護者である家族や行政職員、施設関係者等から直接お話しをお聞きすることができました。

今回のアンケートによる調査や現地に出向き把握した実態を整理し、新たな対応策等を明確にし、関係機関に提案することとしました。この提案が、重い障害があっても在宅で笑顔いっぱい暮らせるための医療、福祉、療育等の新たな障がい福祉制度化へつながることを期待します。

## お問い合わせ先

### 社会福祉法人キャンパスの会

〒885-0082

宮崎県都城市南鷹尾町13街区2号

TEL: 0986-51-5132

FAX: 0986-26-5735

E-mail: canbas-minobaru@wine.ocn.ne.jp

### ＝社会福祉法人キャンパスの会の事業内容＝

- ・給食センターキャンパス 就労継続支援A型・B型
- ・お弁当のまるよし 就労継続支援A型・B型
- ・CBSリネンサービスしゃぼん 就労継続支援A型・B型
- ・CBSリネンサービス年見 就労継続支援A型
- ・補装具(紙おむつ) 交付委託事業 就労継続支援A型
- ・居宅介護支援事業所(移動支援・日中一時支援)
- ・相談支援事業所キャンパス
- ・年見GH・広原GH・久保原南GH(共同生活事業)
- ・さくら短期入所事業所
- ・なみき生活介護事業所
- ・はながしま障がい福祉サービス事業所  
(生活介護・短期入所・日中一時)
- ・はながしま診療所(医療型短期入所)
- ・キャンパス配送センター 就労継続支援A型
- ・はながしま 就労継続支援A型
- ・AZMレストラン 就労継続支援A型
- ・酒類販売 就労継続支援A型
- ・食品加工 就労継続支援A型
- ・六次化 就労継続支援B型

◆この報告書は、公益財団法人ヤマト福祉財団の平成30年度障がい者福祉助成金を受けて出版・配布しています。

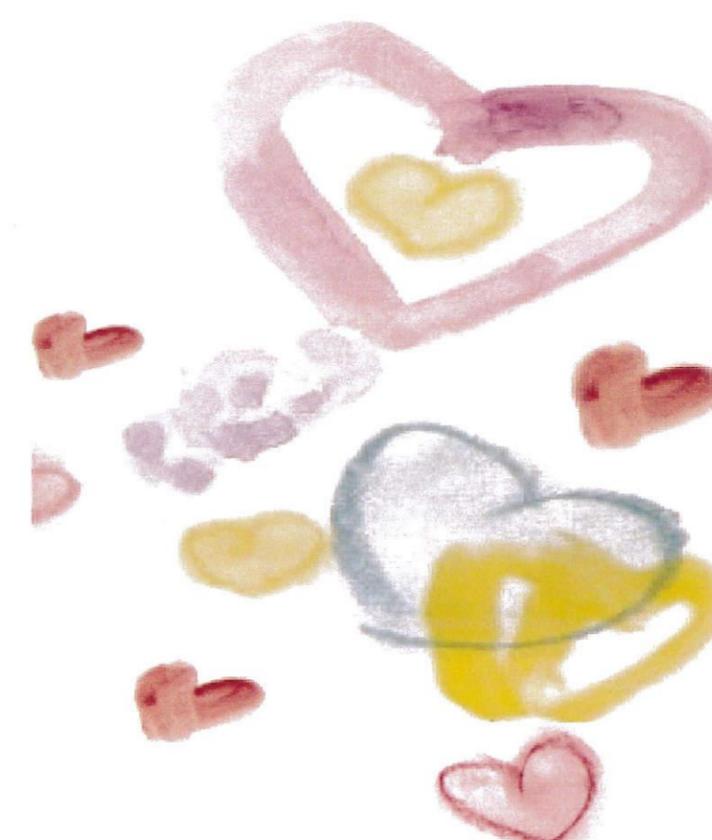


## 公益財団法人ヤマト福祉財団

平成30年度障がい者福祉助成事業実施報告

## 生きるを支える

～重症心身障がい児(者)の望ましい支援や制度構築～



## 社会福祉法人キャンパスの会

事業名

【重症心身障がい児（者）の望ましい支援や制度の構築のための調査事業】

事業の目的

【重症心身障がい児（者）と介護者である保護者自らが、日頃抱えている課題等について、保護者と医療・保健・協力・福祉等の縦横連携協働で、アンケートやヒアリング調査において実態を把握し、その結果を調査・研究会において協議し、課題解決のための対応策等を明確にすると共に政策に提言することを目的に取組む。】

事業の進め方

【委員会の設置】

\*委員会設置の目的  
・事業実施に係わる課題の把握、検討と事業の進捗管理

\*委員の構成

・委員9名（保護者、大学教授、県議会議員、医師、社会福祉法人理事等）  
・オブザーバー4名（宮崎県福祉保健部職員）  
・調査員3名（宮崎大学地域資源創成学部学生）

\*委員会の開催 4回の開催

具体的な取組み

【委員により先進地調査】

\*視察委員6名（県議会議員、医師、保護者、社会福祉法人職員等）  
\*視察先：・横浜医療福祉センター（神奈川県）・旭川療育園（岡山県）

【調査実施に伴う事前研修】

\*研修Ⅰ 講演会  
・講師：NPO法人日本障害者協議会代表 藤井克徳氏  
・演題：「障がいのある人の人権を考える」  
・講師：参議院議員 自見はなこ氏  
・演題：「重症心身障がい児（者）に対する災害時対応」（スカイプで講演）  
\*研修Ⅱ 講義  
・講師：宮崎県立子ども療育センター 小児科医師 澤田一美氏  
・演題：重症心身障がい児（者）の生活  
・講師：宮崎県福祉保健部 障がい福祉課 主査 安部圭氏  
・演題：障がい福祉制度とサービスについて 他  
\*研修Ⅲ 施設見学  
・視察先：社会福祉法人キャンパスの会 はながしま

【調査事項】

\*目的  
・重症心身障がい児（者）の震災等での実態を把握し、被災時に伴う対応策の仕組みづくりと福祉の制度に向け、提案することを目的に調査する  
\*調査先  
・県外調査：熊本県大津町と益城町に住む被災された重症心身障がい児（者）とその家族、行政職員、福祉施設等  
・県内調査：宮崎市内に住む重症心身障がい児（者）とその家族68名  
\*調査内容  
・震災等における被災時個別マニュアル作成等の調査及び当事者やその家族の夢、望ましい支援や制度等  
\*調査メンバー  
・県外調査メンバー 4名（宮崎大学地域資源創成学部教授1名・学生3名）  
・宮崎市内調査メンバー 7名（宮崎県立看護大学看護学部学生）



1. 地域住民と重症心身障がい児・者（障害者）との交流の推進を図る一助として「福祉防災の日」を創設する。
2. 医療的ケアを必要とする人の一時的な避難先として、医療避難所（仮称）の設置を検討する。
3. 災害時における障がい福祉サービスの運用に当たっては、柔軟な対応を行う。
4. 重症心身障がい児（者）及び住民一体となった早期の個別避難計画を策定する。

\*ヒアリング調査での、皆さんのご希望やご提案を提言としてまとめました\*

